opusdei.org

奇跡に立ち会った 方々の証言集から

2004/01/21

かっこ内は(場所、証言の日付)となっている。

コンスエロ・サントス・サンス

ネバド医師の妻、看護婦(アルメンドラレホ、1993年7月1日)

1962年12月、結婚した当時には、すでに度重なるX線の照射による疾患が現れていました。

1992年6月には執刀することができなくなりました。そのころ、角質の疵皮が広がり、指の両側面にがました。最もひたのは、潰瘍できていたのは、潰瘍できたの甲と中指の側面にできた。見がずいぶん悪いので、夫は、同を包帯で覆っていました。私は、何度もそれを付け替えました。

イシドロ・パラ・オルティス医師

皮膚科学教授、1963年よりネバ ド医師の友人(メリダ、1993年 7月2日) カルメン・エスケタ・カバヨ修道女

メルセス会修道女、看護婦、196 2年よりネバド医師と共に勤務(ハエン、1993年6月30日)

徐々に簡単な外科処置に時間を割くようになりました。外傷の治療やX線を使う処置から完全に身を引いていました。外科の仕事をやめるまで、唯一していたのは、軽度の整骨やギブスをはめることでした。

マヌエル・ネバド・レイ医師

(アルメンドラレホ、1993年6 月30日)

1992年9月上旬、農業関係のことで農務省に赴きました。農務省で人を探している間、そこに勤めている農業技師、ルイス・エウへニオ・ベルナルドに摂理的に会いました。彼は、私が待っている間、大変親切に対応してくれました。

ルイス・エウヘニオ・ベルナルド

農業技師 (バダホス、1994年5 月19日)

ネバド医師と別れ際、彼の手に目を やると、手が傷だらけであるのに気 づきました。どうしたのかと尋ねる と、ずいぶん前からひどい慢性の放 射性皮膚炎を患っていると答えまし た。

何かしてしてあげられないかと思い、その数ヶ月前に列福されたオプ

ス・デイ創立者ホセマリア・エスク リバーの信心カードを渡しました。 福者の保護のもとに自分を置き、両 手の治癒を求めてはと、勧めたのを 記憶しています。

ネバド・レイ医師

(アルメンドラレホ、1993年6 月30日)

コンスエロ・サントス・サンス夫人

(アルメンドラレホ、1993年7 月1日)

短期間の内に夫の手の傷が良くなっているのが分かりました。包帯を換えてくれるように頼まれることもなくなり、大きな潰瘍が完全に治っているのに気づきました。角質化した瘡蓋(かさぶた)が消え去っていたのです。

マヌエル・ネバド・レイ医師

(アルメンドラレホ、1993年6 月30日)

祈りのカードをもらった日から福者ホセマリアの取り次ぎに委ねました。両手は快方に向かい、だいたい15日ぐらいで傷が消えて完全に治り、今のようになりました。

この治癒は、普通には説明がつかないのは明らかです。放射性皮膚炎が回復不可能であり、いかなる治療も

していませんでした。潰瘍を閉じる ために皮膚移植をしてはどうかと考 えた皮膚科医がいましたが、考えた だけで実行には至りませんでした。

イシドロ・パラ・オルティス医師 (メリダ、1993年7月2日)

定期的にレイ医師に会い、両手の診断をしていました。驚いたことに、この前あった傷が消えていました。 その他の傷も、何の治療をすることもないまま自然に治ってしまいました。

私の経験では、この種の広範囲に広がった傷は、進行性のものです。通常、進行するというのは、慢性の放射性皮膚炎が、悪性のものへと慢性に進んでいき、治ることはありません。

自然治癒に至ったケースは、当然の ことながら、一つとしてありません でした。通常、時間の経過に伴って 現れる類表皮癌を治療するために、 指の切断をしなければなりません。

ルイス・エウヘニオ・ベルナルド・ カラスカル

農業技師 (バダホス、1994年5 月19日)

クリスマスの少し前、ネバド医師から電話があり、両手の傷が完全に消えたと大喜びで伝えてくれました。 福者ホセマリアの取り次ぎによる治癒でした。

マヌエル・ネバド・レイ医師

(アルメンドラレホ、1993年6 月30日)

転移しないか非常に心配していました。予後は、ずいぶん悲観的でしたから。でも、転移はしませんでした。放射性皮膚炎は簡単に治りまし

た。福者ホセマリア・エスクリバー の取次ぎのおかげであると考えざる を得ません。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/qi-ji-nili-chihui-tsutafang-nozheng-yan-ji-kara/ (2025/10/29)